

「1年生の『理科授業』(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

1年生の子どもは、化石について思いのほかよく知っていた。授業が終わりに近づいても、挙手が終わらない。仕方なく、化石について知っていることを配布した紙に書いておくように指示し、授業を終えることとした。



最後に見せたのは古生代のオウムガイの仲間的一种「オルソセラス」だ。保存状態の良い標本である。



1年生の子どもにとって、「触る」ということは「見る」以上に大切な体験だ。もしかしたら、「触ること」は「見ること」の一部なのかもしれない。しかし落として割られてしまうことも覚悟しておく必要がある。

最後に、子どもたちの記録を2つ紹介しておこうと思う。1年生なりに、一生懸命に記録をしていた。

